

## 理事からのメッセージ

## TTC創立40年を迎えて

理事  
岩科 滋 (株式会社NTTドコモ R&Dイノベーション本部 6Gテック部 コーポレートエバンジェリスト)



TTCが創立した1985年からの40年間で、情報通信技術（ICT）産業ほど発展し変化した産業はないでしょう。インターネット、スマートフォン、ソーシャルメディア、クラウドコンピューティング、ビッグデータ、IoT（Internet of Things）などが急速に進化し、TTCの創立時には想定されていなかった広範な技術領域にまで標準化活動が広がっています。

創立時、国内には100に満たない情報通信事業者が存在しましたが、技術革新と市場の拡大により、その数は今では25,000を超えています。この成長は私たちの標準化活動が開発コストの削減、相互運用性やエコシステムの確立など、ビジネス拡大のための重要な役割を果たしてきた結果です。

特に私が活動領域としている移動通信の分野ではその影響が顕著です。第2世代まで、移動通信の標準化規格は地域ごとに異なるものでした。日本、北米、ヨーロッパ各地域が独自の標準規格に基づいた仕様を持ち、国際ローミングが困難であったためグローバルな活動の障壁が存在していました。

第3世代では、3GPP（3rd Generation Partnership Project）によって国際標準化が試みられました。しかし、結果的には複数の規格が策定されたためいくつかの課題が残りました。複数の標準規格は、国際ローミングを複雑にし、通信事業者を変更するたびに端末を買い替える必要があるなどの不便な状況を生んでいました。

これらの課題に対処すべく、第3.9世代のLTE（Long Term Evolution）においては、世界で統一された標準化が遂に実現しました。サービス利用者は世界的な統一規格により自身の端末のまま世界中でサービスを受けることができ、通信事業者の契約を変更しても端末の買い替えが不要となりました。このように統一された標準化は、利用者にとって非常に大きな利便性をもたらし、通信をより円滑に、より広範囲にする基礎を築きました。

このように、標準化活動は技術の発展と普及における重要な推進力であり、特に統一された標準化は、利用者と事業者双方に大きな効用をもたらしています。移動通信における標準化の進展は、地球規模での通信を可能にし、私たちの日常をより豊かに、効率的にする重要な要素となり続けています。今後標準化されるBeyond5G/6Gにおいても標準化活動が更なる革新を導き、世界中の人々の生活を支える基盤として機能することが期待されています。

電気通信産業は社会を支える基盤として、そしてAIの産業利用が拡大する中でその用途がますます広がり、未来の社会を形成する重要な要素となります。標準化活動もこの未来を作るための非常に重要な活動です。

最後に、あらためてこれまでの40年間にわたり支えてくださった全ての方々へ感謝申し上げます。